



はーと なび



社団法人 全国腎臓病協議会

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 1-20-9 巣鴨ファーストビル3階

2013 年5月 15日発行

TEL:03(5395)2631 FAX:03(5395)2831 E-mail:sougei@zjk.or.jp

1. 2011 年度血液透析患者実態調査報告書を発行しました。

「2011 年度血液透析患者実態調査報告書」の調査にご協力をいただき、ありがとうございました。おかげさまで、2012 年 12 月 20 日に発行することができました。

今回の調査結果の概略をお伝えします。

- ◆調査対象者の人数は、全国の各患者会の会員名簿より抽出された 7,784 名
- ◆調査対象者の男女比は、男性 55.6%女性 44.4%。第 7 回以降現在までの 10 年間では大きな変化はみられませんでした。
- ◆年齢については、最低年齢 23 歳・最高年齢 97 歳と幅広い年齢層の方がいらっしゃいました。平均年齢：65 歳で、最も多い年代は、男女共に 60 歳から 69 歳が全体の約 40%を占めました。
- ◆受療形態は、通院：7,680 名、入院：87 名、無回答：17 名でした。

アンケート調査結果で通院に関する項目を下記に抜粋しました。

(1) 透析患者の通院

①通院の手段

通院して透析医療を受けている患者が、自宅あるいは職場から病院へ行くときの主な手段をたずねた。

最も多かったのは、「自分で運転する自動車」が 48.5%であった。

次いで、「透析施設の自動車」が 15.0%、「家族が運転する自動車」が 13.0%と続いた。

過去 2 回の調査で、これら 3 つの選択肢に対する回答割合はほぼ等しかった。

「ボランティア等の団体・組織が運転する自動車」については、これを主な通院手段として回答した人の割合は、過去 3 回の調査でほとんど同じ値であった。

(2001 年 0.8%、2006 年 1.4%、2011 年 1.2%)

②通院に要する時間と費用

片道 30 分未満で行ける医療施設で透析治療を受けている患者の割合は、今回の調査も含めて改善傾向にあった。

(1991 年 52.7%、1996 年 71.5%、2001 年 77.5%、2006 年 80.0%、2011 年 82.0%)

費用については、月額 1 万円以上という比較的高額な通院費用を支出している人の割合は、通院者全体の 11.9%で、この割合は多少の前後はあるものの、減少傾向にあった。

(1991 年 20.6%、1996 年 13.4%、2001 年 16.4%、2006 年 15.2%、2011 年 11.9%)

(2) 通院する上での困難

通院に関して患者が感じている困難の程度を調べるために、

「自宅や職場から病院が遠い」「通院にかかる交通費が高い」「施設の行き帰りだけでくたびれる」という 3 項目について、各々「おおいにそう思う」から「全くそう思わない」までの 4 段階の選択肢でたずねた。

通院上の困難を訴えている人の割合を「おおいにそう思う」「ややそう思う」と回答した人の合計で示すと、

「くたびれる」が 23.3%、「病院が遠い」が 22.7%、「交通費が高い」が 17.5%であり、それ以前の 4 回の調査からの回答傾向をみると、いずれの項目ともわずかながらに減少傾向にあった。

「くたびれる」については、

(1991 年 33.4%、1996 年 29.8%、2001 年 28.9%、2006 年 25.9%)

「病院が遠い」については、

(1991 年 30.6%、1996 年 28.0%、2001 年 26.9%、2006 年 25.3%)

「交通費が高い」

(1991 年 26.0%、1996 年 20.6%、2001 年 20.1%、2006 年 21.7%)

(3) 通院の自立と介助

通院時につきそいを必要としているか否かについては、

- ・「たいていは一人で通院している」が 86.1%
- ・「しばしば誰かにつきそってもらっている」が 1.9%
- ・「いつも誰かにつきそってもらっている」が 7.7%で、これらの分布は過去 4 回の (1991 年、1996 年、2001 年、2006 年の各調査) 調査の結果とほぼ同じであった。

「たいてい一人で通院している」と答えた人々に対し、「もしも一人で通院することが困難になった場合、通院の介助をあてにできる人はいますか」とたずねたところ、36.1%の人が「いない」と回答していた。

また、「いない」と回答した人の割合は過去 4 回の調査とほぼ同じであった。

(1991 年 38.5%、1996 年 34.9%、2001 年 39.9%、2006 年 42.6%)

通院時につきそいを必要としている人の場合、付き添い役としては、

- ・「配偶者」が 61.4%と最も多く、
 - ・「配偶者以外の同居家族」が 20.4%であった。
- 「配偶者」と「配偶者以外の同居家族」が占めている割合はそれぞれ、過去 3 回までの調査でほぼ同じであった。
- (「配偶者」の割合については、1996 年 67.9%、2001 年 50.6%、2006 年 59.3%)

その他、「透析施設の職員による送迎」を受けている人が 9.2%

「介護保険のホームヘルパーの付添い」を受けている人が、3.4%であった。

それ以前の調査と比較すると、この 15 年間では「透析施設職員による送迎」が増加傾向にあるものの、「介護保険のホームヘルパーの付添い」は、2006 年調査までは増加傾向にあったものの、2011 年の調査では減少していた。

具体的には、

(「透析施設の職員による送迎」については、1996 年 2.0%、2001 年 6.6%、2006 年 8.2%)

(「介護保険のヘルパーの付添い」については、1996 年 1.1%、2001 年 6.6%、2006 年 11.6%) であった。

(以上、2011 年度血液透析患者 実態調査報告書 P13「通院」より抜粋)

2. 「緊急止血救急セット」のご紹介

送迎時の急な出血に備えて、「緊急止血救急セット」を作成している事業所があります。その一例として、ご紹介いたします。「緊急止血救急セット」は、通院介護センターさわやかが病院に協力を得て作成されたものです。

送迎されているボランティア運転手さんにお配りしているもので販売はしていないとことです。



(写真提供：通院介護センターさわやか)

キットの中には、

- ・ゴム手袋
- ・アルコール綿
- ・保護テープ
- ・透析ケアセットが入っております。

他の事業所でも、独自に緊急時用の救急セットを車内に備えている事業所もあります。利用者が安全に通院できるよう、未装備の車両がありましたら、設置に向けてご検討をお願いいたします。

3. 会報「ぜんじんきょう」No. 257号を発行しました。

会報を全面リニューアルしました。今回の「ぜんじんきょう」では、透析患者の足病変について特集しています。足病変は、早期発見、早期治療、日頃からの足の管理によって重症化を防ぐことができます。

足病変について原因や症状、予防方法などを特集していますので、ご覧下さい。

足は第二の心臓と言われるほど、体循環において重要な役割を担っています。透析患者や高齢者は特に足のケアが大切です。足の状態や足に傷をつけないように日頃から足への関心を高め、毎日のケアを心掛けましょう！

全腎協では、企業と協賛事業の一環として、長期透析による合併症とフットケアの講演会を行っています。開催日時につきましては、詳細が決まり次第ご案内いたします。



4. 通院対策委員会の活動

通院対策委員会では、2012 年度の取り組みの中で、全腎協からの情報発信ができなかったことについて反省をし、新年度は情報発信について強化することを第 8 回通院対策委員会で確認いたしました。

通院対策委員会では、その他各地域での通院事例をまとめ、「透析患者通院送迎事例集」の作成に向けて作業を行っています。作成にあたり、各事業所にもお問い合わせをさせていただく場合があるかと思いますが、その折には何卒ご配慮お願い申し上げます。

また、2013 年度の全腎協事業計画では、11 月 9 日（土）10 日（日）に通院送迎研修会を開催の予定をしています。通院送迎研修会の企画、内容については、今後、通院対策委員会を中心に検討し準備をしています。具体的な内容が決まりましたら、ご案内申し上げます。

- ◆都道府県組織・通院送迎事業所で通院送迎等に関する情報等がありましたら、ご報告をお願い申し上げます。

（編集後記）

昨年より一年以上「はーとなび」の発行が滞りましたことを深くお詫び申し上げます。

新しい体制へと立て直し発行いたします。事務局では、小山・金子が担当します。

お問い合わせ等ありましたら、事務局小山までご連絡お願いいたします。

（連絡先：全腎協 送迎担当

電話：03-5395-2631 FAX：03-5395-2831 Email sougei@zjk.or.jp